

自転車利用を通して学び、安全に生活する態度を育成する学習の事例

交通

高等学校 第2学年 総合的な探究の時間

授業づくりのポイント

- 年間の二輪車・自動車に関する講演や学習で得た知識を用い、道路の安全な歩行や走行をするためにはどうすればよいかグループで考えさせる。
- 生徒が現地をフィールドワークし、地域の交通上の危険箇所を調査する。そこから得た情報をグループワークで共有し、検討する。

単元について

1 題材名 交通マナーの意識向上と、地域社会の一員として地域の交通安全向上につながる能力の育成

2 目標

II-3

二輪車・自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行や走行ができるようにする。

II-4

地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解するとともに、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。

3 教材化の視点

全校生徒の約8割が自転車通学をしており、登下校中の自転車事故や交通マナーに関する苦情も多く報告されている。交通ルールや自転車の使い方の理解を深め、徹底させる必要がある。

今回は年間で行っている交通安全指導や、学期ごとの交通安全講話、そして Stanton Manによる交通事故再現授業(スケアード・ストレイト)を踏まえ、学校周辺の交通上の危険箇所を生徒自身が実地調査し、問題点や課題を発見し、改善するためにどうすればよいのかと考えさせることによって、地域の交通安全を自らのこととして捉えることができる生徒の育成を目指す。

指導計画（3時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○交通ルールや自転車運転者としてのマナーを確認する。 ○学校周辺のフィールドワークで、危険箇所を点検し発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車運転者、歩行者、交通弱者など、様々な道路利用者の視点で点検するよう指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○フィールドワークで収集した情報を整理・分類する。 ○グループ協議資料を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道路利用者の視点と危険の分類を明確にし、ワークシートを基に整理と分類を行わせる。
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○フィールドワークを踏まえたグループ協議を行う。 ○グループ発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○危険箇所に対する改善方法をグループ内で話し合せ、提言を行わせる。

指導事例（第3時／3時間）

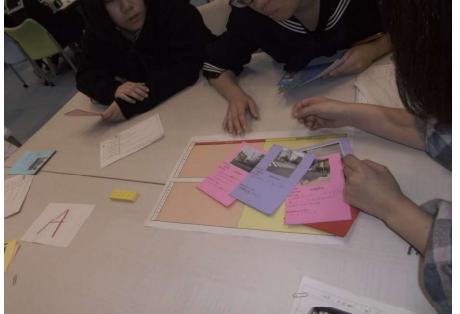
1 ねらい

フィールドワークでの発見を生かし、個々で考えた改善方法をグループ内協議を通じて相互認識し、地域社会全体の交通安全を向上させるような、より良い改善方法を考えさせ、提言することができるようとする。

2 ポイント

第2時までに考えた個々の意見をグループ内で共有し、改善方法を考えさせる。その際、フィールドワークで発見したことを基に、地域の交通安全を向上させるにはどうすればよいか話し合わせる。

3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点	■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク今までの活動を振り返る。 <p>グループで地域社会全体の交通安全を向上させるような改善方法を考え、提言しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○この授業を通じて、地域の交通安全に関わる一員としての役割があることを伝える。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時間で作成した[調査報告]をグループ内で発表する。 ・[調査報告]を《行動的危険》《施設構造的危険》に分類する。 ○グループで協議する。 <ul style="list-style-type: none"> ・分類した[調査報告]について、改善のための提言をグループ内で考える。 ○クラス全体で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・改善のための提言を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○《行動的危険》→赤用紙、《施設構造的危険》→黄色用紙上に並べて置かせる。 ○付せんに書き出した提言は発表物に貼り付けさせる。 ○グループ内で考えた《行動的危険》《施設構造的危険》をそれぞれ一つずつ選び、クラス内で発表させる。 	 <p>■二輪車・自動車の特性について理解し、グループごとに地域の交通安全を自らのこととして捉えている。（観察・ワークシート）</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議とクラス発表について総括する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全のためには、歩行者、自転車運転者、自動車運転者、警察、道路管理を行う行政それぞれが関わり、関連しながら取り組んで行くことが必要であるということを伝える。 	

生徒の感想

・身の回りの危険箇所を「行動的危険」と「施設構造的危険」に分類したが、「施設構造的危険」はすぐに改善することはできないため、まずは自分が交通マナーを意識して「行動的危険」を減らすことが必要だと思った。

生徒の変容

・「行動的危険」、「施設構造的危険」を意識することができるようになり、交差点での一時停止や、並走・逆走運転など、交通ルールを守って自転車を運転できる生徒が増えた。